

第19回TQM発表会報告書

TQM推進部会

日時: 令和3年6月30日(水) 17:30~18:30

場所: 健診センター2階大講堂

参加者: 45名

発表: 3チーム 発表時間12分

◎=発表者

テーマ	サークル/チーム名	メンバー	発表内容
記録とカンファレンスで 不必要な抑制を見直す	行動抑制を考える会	◎中井晋平 吉川ひろみ 徳政美穂 山田里恵 三上清香	2階病棟では、患者の治療が優先される部署であり、行動抑制をせざるを得ない現状がある。そこで、行動抑制をアセスメントするための取り組みとして、行動制限に関する記録の習慣化と定期的な抑制カンファレンスの導入を図ることを目的に、まずはスタッフへのアンケートを行った。その結果、十分な抑制アセスメントが行われていない現状が明らかとなった。さらにアセスメントができない理由は何かをフィッシュボーンで解析し、4つの対策を立案し実践した。行動抑制アセスメント記録記載率は67%から75%に増加したが目標の100%には達しなかった。逆に抑制カンファレンス開催率は75%から40%に減少した。しかし、無形効果としてスタッフは行動抑制の必要性について考えるようになり、意識が変わったという言葉が多く聞かれた。カンファレンスを行う時間の確保に向けた取り組みも継続していく必要がある。
透析室の避難経路を作ろう	チームHKT	◎福岡祐子 大石智香子 大長美智子 森田剛正	師長が替わり、透析室内の避難経路に物が多く、コンソールとベッドが当たりそうで危険!と指摘を受け、避難経路を確保し安全に誘導できるようにしたいと考え活動した。避難経路に置いてある備品を移動できる場所はあるか、不要な備品はあるかなど現場検証や広さなど計測し、実際に備品を移動してシミュレーションを重ねていった。その結果、ベッドがスムーズに移動できるだけの避難経路を確保することができた。今後は、避難経路が確保できている環境を継続する事と、透析室外に移動した後の行動についても検討をしていく。

<p>造影CT検査における前処置の徹底</p>	<p>くまの前処置さん</p>	<p>◎熊谷彰大 谷川 淳 平田 彰 原田典明 上前裕太</p>	<p>当院における造影CT検査では、腎機能低下患者や副作用歴がある患者には前処置を行うことになっているが、現実では適切に実施されていない。そこで適切な前処置の徹底を促すことを目的とし活動した。まず、電子カルテや医師に対するアンケートを行い現状を把握し、目標設定を腎機能低下・副作用歴のある患者に対する前投薬の投与率を90%以上にすると設定。要因分析はフィッシュボーンを用いて要因を解析。医師に対しアンケートを行いその結果を用いて検証した。活動として、全投薬の啓発ポスターの作成と、電子カルテオーダー画面の修正を行った。その結果、腎機能低下患者と副作用歴のある患者の対応は手順通りに実施できていることがわかった。今後も造影CT検査で前投薬が実施されるように継続して対策を実施していきたい。</p>
-------------------------	-----------------	--	---

以上、発表会に最初から参加した方に上位1チームを選んでもらい、投票し順位を決定した。

- 1位 くまの前処置さん (放射線科)
- 2位 チームHKT (透析室)
- 3位 行動抑制を考える会 (2階病棟)